

# A Brief Note No. 191

発行日：2008.5.27

発行人：Matsuo Masayasu

## 初夏の深緑を楽しむ飯田線車窓の旅

千葉市花見川区 小林 敬

旧友と心地よい酒を酌み交わした翌日、朝のラッシュアワーの静岡駅に入った。

今朝方までの雨の影響かダイヤが若干乱れているようなので、予定よりやや早めの電車に乗ることにした。下り浜松行き 8:07 発は座席が埋まる程度の混み方で、東京の通勤ラッシュに比べれば楽なもの。

安倍川、用宗、焼津・・・、川幅のごく一部しか水が流れていない大井川の長い鉄橋を渡るころには青空も出始めてきた。

大井川とは裏腹に、「さすが」と言いたくなるような天竜川のみごとな川っぷりを眺めると終点の浜松。

反対側のホームから出る 9:48 発大垣行は時間通り入ってきた。通勤時間帯を少し外れたせい、乗客は学生と主婦に変わってきた。

浜松を出ると周囲の景色は関東平野のように、ただただ広い平原と遠くに見える山なみ。やがて水辺を感じさせる景色に変わり、浜名湖が姿を現す。海と接している部分では潮の干満との関係か、ガード下に見える水面は渦を巻いてかなりの迫力。浜松を出て 30 分余りで豊橋に到着、10:22。

豊橋駅のプラットホームの並び方は面白い。JR のホームの真ん中に名鉄のホームが割って入っている。

飯田線のホームが一番北のはずれにあり、隣のホームからは名鉄のモダンでカラフルな特急電車が頻繁に出入りしている。

10:43 発天竜峡行は二両編成、発車間際に周りを見渡したところ乗客は十数名程度。新幹線・東海道線・名鉄などの各路線の電車が出入りするたびに賑やかな人の流れが発生するが、飯田線のホームにはそういった喧噪もなく、時が来たれば淡々とマイペースで発車という雰囲気うれしい。

豊橋を出てしばらくの間は住宅地の中を走り、豊川を過ぎると郊外の景色に変わっていき、やがて三河路の田園風景になっていく。さらに進むと徐々に低い山間に入って行き、静岡県境の山に向かって登って行くのがわかるようになってくる。本長篠あたりを過ぎると、車窓からは左右の山の斜面の万緑が手に取れるようになってくる。山頭火になった気分ですぐひねってみた。

万緑を分け入るごとく飯田線

空雲峰映る水田(みずた)に早苗ゆれ

東栄を過ぎると愛知県は終わり静岡県に入る。飯田線は天竜川の支流に沿って下り、トンネルを抜けると本流に入り、流れも逆になる、わくわくする。

駅の隣に発電所がある佐久間、山あいの広い窪地にある水窪(みさくぼ)など特徴のある景色に目は飽きない。川井・池場・浦川・早瀬・水窪と水に関係する駅名が続いたあとに、中井侍(なかいさむらい)・鶯巣(うぐす)・為栗(してぐり)などの難読駅名が続き、唐笠・金野・千代などの粋な駅名を楽しんで



< 10:43 発天竜峡行 >



< 名前も景色も美しい水窪 >

いる内に終点の天竜峡に到着 14:06。

次の上諏訪行を待つ 30 分ほどの時間を利用して昼食をとることにして、途中下車。駅前にあるお店はほとんどが開店休業の状態なので、踏切を渡り船着場方面への道を進むと蕎麦屋の看板が目に入った。昼飯時を過ぎたせいか、店内ではおかみさんがテレビで午後のドラマを楽しんでいた。電車に間に合わないともずいので、てっとり早そうなざるそばを注文。待つこと 15 分、そばの国信州ではあるが特に可もなく不可もない味だった。正直に言えば、時計ばかり気にしていたので味覚中枢はあまり働いていたとは思えない。店を出て駅に戻る途中で崖下の天竜川を覗き込むと、昨夜の雨のせいか赤茶色に濁った水が見えた。

14:38 発上諏訪行はまたまたがらに空いていて、どこでも好きな所に席を取ることができた。

天竜川は水が濁り、満々とたたえた水流はところどころに土砂崩れの爪痕があったりで、大河を感じさせる。



< 嵐の爪痕 >

時又(ときまた)・駄科(だしな)・毛賀(けが)と笑いを誘うような駅名が続き、次の駅が楽しみな一瞬を繰り返すうちに、西側の車窓に大きな風越山が見え始めると、間もなくで飯田。

飯田を過ぎると伊那路独特の景観、西に中央アルプス(木曾山脈)東に南アルプス(赤石山脈)間に天竜川と田圃と畑と……。何と言っても二つの大きな山脈は、残雪をいっばいに抱いた迫力のある白さがたまらない。

特に南アルプスは、通路をはさんで反対側の席の窓枠を額縁にしたような眺めで、時折席に座っている女子高校生二人のシルエットが加わり贅沢この上ない。(下の写真)

左側の車窓に見入っているうちに驚きの声を上げてしまった。

人一倍大きな南駒ヶ岳と空木岳にはさまれたカールに、五つの黒い点が見える。「五人坊主」の雪形である。伊那谷では五人坊主が出たら豆の種まきをするという話を本で読んだことがある。五月の連休明け頃に見えることが多かったが、今年の残雪の多さが理由だろうか、5月20日にこれが見られるとは驚きである。だとすると、「島田娘」も見られるのではないかとにわかに胸が騒ぎだした。

駒ヶ根が近くなるにつれて、空木岳から張り出す池山尾根と檜尾岳が大きく立ちはだかり、やがて濁沢大峰の斜面にくっきりと髪を島田に結った娘の立ち姿が現れた。

残念ながらカメラのアングルに障害物が多く、おまけに飯島あたりから各駅で乗り込んでくる高校生の帰宅ラッシュで車内は超満員になってしまい、貴重な画像のシャッターチャンス逃してしまった。しかしこの目にしっかりと焼きつけることはできた。

超満員の車内での次なる楽しみは、色々な制服の高校生が周りで繰り広げる様々な会話に聞き入ること。その話の種類は概ね制服の種別通りに分類できるのも面白かった。またバドミントン部と思われる部活の生徒たちの団体を見ていたら、たとえ目の前の席が空いても、先輩が座るまでは後輩は座らないという礼儀正しさ(?)が面白かった。



< 南アルプスは額縁の中 >



五人坊主の雪形

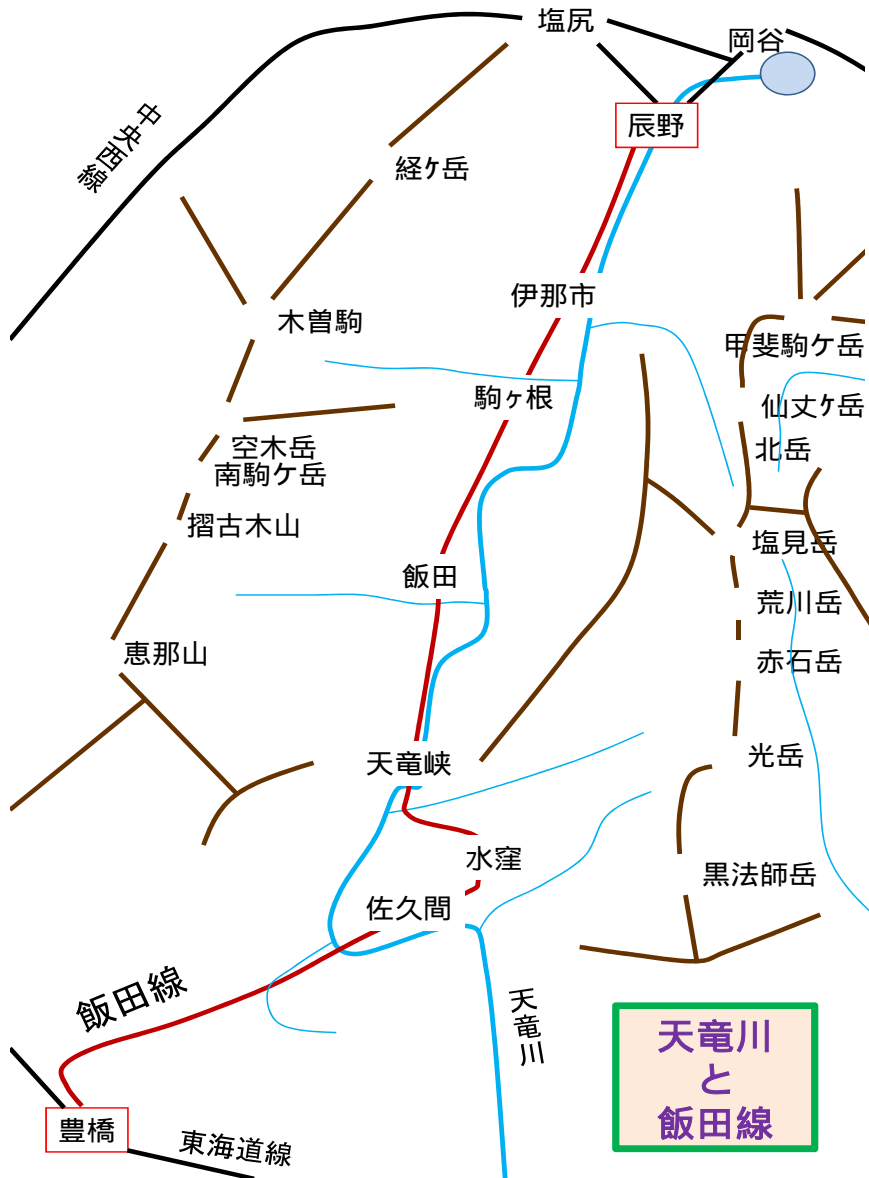
伊那市を過ぎると、天竜川の水は今までの南アルプスや中央アルプスから流れ出す荒々しい流れとは変わって、豊かにゆっくり諏訪湖から流れ出す穏やかな流れに変わってきた。

岡谷で学生たちのほとんどは下車して静かな車内となり、再び車窓を楽しむことができた。最後の楽しみは諏訪湖の眺め。そして、17：40 終点の上諏訪駅に到着。

豊橋から約七時間の長い長い各駅停車の旅はかすかな腰痛とともに終了した。

上諏訪の夜は、古い友達との「けとばし」の夕食、そして源泉かけ流しの温泉。

以上



島田娘の雪形（昭和 42 年 5 月撮影）  
写真中央：かんざしを付けた髪と襟の形としなやかな体の曲線